

天地開闢



Infrasonic speaker RIS-KM1V + K-Monitor KM1V

RIS-KM1V インフラソニック登場

K-Monitor KM1V の登場から 20 年 レイオーディオのインフラソニック技術が 15Hz から再生可能な KM1V 専用インフラソニックスピーカー "RIS-KM1V" へと結晶しました



インフラソニックスピーカー RIS-KM1V 本体内にスピーカーシステムとして必要なフェイズチューンドクロスオーバーとインフラソニック用および KM1V 用のパワーアンプを全て内蔵



RIS-KM1V + KM1V このシステムから眼前に現れる音楽世界はまさに想像を絶する驚異の迫力にしてどこまでも自然です



REY AUDIO



レイオーディオ

250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 1083-11
TEL 0460-86-3304 FAX 0460-86-3305

<http://www.reyaudio.com/> info@reyaudio.com

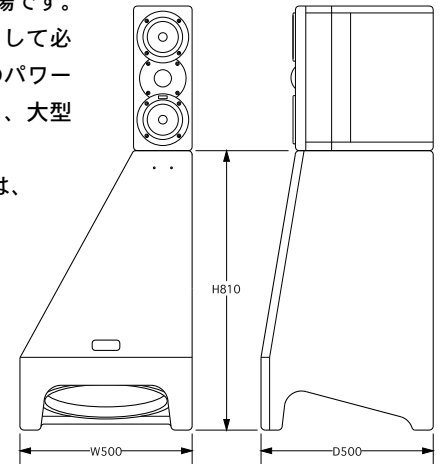
■ KM-1V 専用インフラソニックスピーカー "RIS-KM1V" 登場

レイオーディオは、モニタースピーカーの低域再生を自然な形で可聴帯域外にまで拡張する独自技術「インフラソニックスピーカー」の研究、開発を長年に渡り続けて来ました。その成果が小型モニター KM-1V 専用のインフラソニックスピーカーへと結晶しました。"RIS-KM1V" 遂に登場です。"RIS-KM1V" は KM-1V のスタンドを兼ねた筐体デザインを採用し、スピーカーシステムとして必要なフェイズチューンドクロスオーバー、KM1V 用およびインフラソニックスピーカー用のパワーアンプを本体に全て内蔵しています。中型モニタースピーカー級の占有容積でありながら、大型モニターをも凌ぐ超低周波帯域からの再生能力を発揮します。

Infrasonic Speaker RIS-KM1V + K-Monitor KM1V このシステムから眼前に現れる音楽世界は、まさに想像を絶する脅威の迫力でありながらどこまでも自然です。

■ RIS-KM1V スペック概要

KM-1V 専用 スタンドを兼ねる筐体デザイン 信号入力 :XLR メス ,2pin-hot,0.8Vrms 内蔵パワーアンプ定格出力 KM1V 用 200W、インフラソニックスピーカー用 1200W フェイズチューンドクロスオーバー、各種保護回路を内蔵 自然空冷式 再生帯域 15Hz から 最大再生音圧 114dB-SPL,1m,20Hz 外寸 W500-D500-H810mm (突起含まず) 重量 52kg 電源入力 AC100V50/60Hz (120V,230V 発注時指定可能) 消費電力:待機 0.6W、無音 34W 付属品: KM1V 接続用ケーブル Monitorlink*2ds/25cm、AC ケーブル 1.8m、説明書、保証書 KM1V 別売



RIS-KM1V 概略図

■ インフラソニック帯域に対するレイオーディオの取り組みとその歩み

木下正三は、人間の可聴帯域外で有るとされる帯域を再生する事にもなんらかの実質的效果が有るのではないか、との疑問と興味からスピーカーエンジニアとして常に研究を重ねてきました。

- 1974 年 4.5kHz から 100kHz という超広帯域かつ超高域まで再生可能なリボン型スピーカー PT-R7 が木下正三の設計により製品化
- 1976 年 多くの自然音が低域に豊富なスペクトルを持つ事から、人間に対する影響度および重要性は高域よりも低域により多くあるのではないかと着想する
- 1978 年 EAGLES のコンサート用として 30Hz,130dB-SPL/30m という驚異の音響システムを開発 コンサートサウンドの新時代を拓く EAGLES は 1979 年までに使用システムを一新した
- 1981 年 20Hz まで再生可能なスピーカーシステムを開発する一方、可聴帯域外とされる 20Hz 以下にも人間は感受性が有るのではないかと、この発想を「インフラソニック」と呼称し、『ラジオ技術 臨時増刊 現代ステレオスピーカー '82』にて発表
- 1984 年 レイオーディオを設立
- 1984 年 「パーティカルツイン」を発明
- 1984 年 ハワイ島「Dolphin Studio」に世界初のパーティカルツインモニター RM-8V が導入される
- 1986 年 20Hz より再生可能なパーティカルツインモニター RM-7V を開発 その衝撃は瞬く間に世界を席卷 "Twenty hertz monitor" の愛称が自然発生世界中より絶大な信頼を得ると共に、その後の音楽のスタイルと常識をも大きく変化させた
- 1987 年 (株)熊谷組より、超低周波音に関する実験設備として 10Hz より再生可能なスピーカーシステムを受注し、インフラソニックスピーカー RIS-1 の原型モデルを開発 開発中に試験的に音楽を再生した事で得た衝撃的体験が、インフラソニックの重要性と意義に確信を深める事となり、ミュージカルに体験可能な応用例を実現するべく取り組みを開始
- 1988 年 インフラソニックのスタジオモニターへの応用を図るべく、予めから協力関係にあった世界的スタジオデザイナーであるトム・ヒドレー氏と共にスタジオの構造レベルからの検討と開発をスタート
- 1991 年 労働省産業医学研究所より、低周波音の人体への医学的影響を調査する為の設備として、5Hz から最大 125dB-SPL で再生可能な音響装置を受注
- 1989 年 名古屋・世界デザイン博覧会が開催される 山本寛斎氏プロデュースによるアトラクション「KANSAI HUMAN VOLCANO」に、レイオーディオ

オのコンサートシステムに加えて、新開発のインフラソニックスピーカー RIS-1 が採用される 火山の大噴火を背景イメージとしたファッションショーにおいて 9Hz からの再生を行い、観客に最高のサウンドクオリティと異次元の音響体験を提供 インフラソニックスピーカー世界初の一般適用事例

- 1991 年 東京・千駄ヶ谷に「MAGICAL SUPER STUDIO」が期間限定でオープン レイオーディオの手によるショールームを兼ねたミュージッククラブ 20Hz から再生可能な RM-7V に加え、8Hz から 20Hz を再生するインフラソニックスピーカー RIS-1 を導入
- 1991 年 南アフリカ・ボブタツワナ共和国に巨大なレコーディングスタジオ群「BOP STUDIOS」が完成 RM-7V に加え、9Hz から 20Hz を再生するインフラソニックスピーカー RIS-1 が全室に導入される このシステムにトム・ヒドレー氏より "Infrasonic monitor" の愛称が与えられた
- 1994 年 小型のパーティカルツイン式ニアフィールドモニター KM1V を開発
- 1999 年 オーディオにおける音楽も音楽の魂が感じられる本物の音楽でなければならぬとの考えを深め、これを「芸術オーディオ」を名付け、オーディオ誌上の自社広告にて「芸術オーディオ宣言」を行う
- 2003 年 芸術オーディオの拠点として箱根に社を移転
- 2007 年 香港に映画、音楽用の総合スタジオ群「Shaw studios」が稼働開始 全室にレイオーディオ製のモニタースピーカーを採用した複数の録音編集スタジオを備える大規模施設で、400 席の劇場規模を誇る試写室には RM-7V+RIS-1 の "Infrasonic monitor" が導入された
- 2009 年 画期的スピーカーシステム「ミレニアムモニター」を発明
- 2011 年 渋谷・道玄坂に「Sound Musium VISION」がオープン 全てレイオーディオ製のスピーカーシステムを備えた 4 つのミュージックスペースを持つ、世界屈指の規模と最高のサウンドクオリティのミュージッククラブ GAIA と名付けられたスペースには、新開発の「ミレニアムスピーカー」に加え、大幅なパワーアップにより 8kW/ch の瞬時耐入力で 14Hz から再生可能なインフラソニックスピーカー RIS-1M が導入された これによりインフラソニックサウンドは誰もが日常的に体験可能な領域に実現される事となった
- 2012 年 中小規模のスタジオや個人のオーディオスペースにもインフラソニックサウンドを実現するべく、小型モニター KM1V 専用インフラソニックスピーカーの開発をスタート